

## 第2回「親心を育む会」会議記録

日時：平成19年9月31日(金) 14:00～16:20  
場所：熊谷会館 第3会議室  
出席数：17名

### 1. 代表挨拶 行田保育園 園部浅子先生より

会員の皆様のおかげで、無事この2回目を迎えることが出来、感謝しています。今回も皆さんからいろいろご意見を頂き、この会を大いに盛り上げていただきたいと思います。

### 2. 松居和先生挨拶

#### ① 一日保育士体験の励行

「親心」の芽を出すきっかけとして、やはり保護者の一日保育士体験は、効果があります。今実際に行っている園から、体験した保護者のいい感想が入ってきている。是非、まだ未実施の園も「一日保育士体験」に向け、動いてみてほしい。この会の会員の中にもすでにやっている園は何園もあるので、どう親を巻き込み、どう体験参加に持っていったのか、聞いてみてほしい。実際、腹くくってやってみれば、保護者の抵抗なんて、ないですよ。是非！

そして、この会で一日保育士体験を行っている園が増えれば、埼玉県にこれだけ「一日保育士体験」が親心を耕すのにいい！だから県下全域でやりましょう、といえるデーターになります。

#### ② 「一園一道祖神」の極意

前回の話し合いのあと、気付いたことがあります。保育士を長く、それこそ30～40年以上やっていると、「地べたの番人」のようになってくるんですよ(笑)。それでそこから、更に何人かが「道祖神」になってくる。「道祖神」とは何かというと、そこに存在しているだけで、何かがいい！何をしてくれるわけではないのに、いてくれるだけでいい。まるで古代インカのミイラのように！？皆を見守り、心の支えになる。いてくれるだけで、その集団がまとまっていく、みたいなの。

いるでしょ？そういう存在。(何人か大きく頷く)引退させちゃダメ。車椅子になろうが、ちょっとボケてこようが、道祖神が園にいてくれる。これっですごいことですよ。

熊本の2代目青年部の会に呼ばれていたら、一人の若手園長が酒宴の席で訴えてきました。「保護者は初代の、親世代の園長の言うことは聞くのに、

自分たちの言うことには耳を貸さない」って。そのときにこの話をしたので。朝夕、門のところに道祖神がいるとする。それだけで、園の気が整ってくる。すると、「ああ道祖神の息子か」という具合に、(保護者があなたの言うことにも)耳を貸すようになってくる。その若手園長の園では、最近、初代が引退したのです。私は、(その園の経営元である)お寺で初代にお会いしました。40年以上幼児に囲まれた保育士に、引退はないのですよ、とお話しすると、道祖神も喜んでおられました。

この保育という歴史の浅い世界が、初めての世代交代を迎えようとしているのです。これから、子供にとって、親にとって、どうかたちがいいのか。未体験の世界ですよ。そこを乗り切るためにも道祖神は引退させない！

「一園一道祖神」説。私これ文化人類学的にちょっと考えてみようかと思っています(笑)。

### 3. 新規会員自己紹介・会員自己紹介(名前のみ)

### 4. 情報交換

#### ①「保育園の役割・家庭の役割」

☆「保育園が子どものためを思ってやってあげれば、やってあげるほど、家庭本来の意味が失われているように思えるのですが」というお題で。

《ある園の例》

その1) 母親蒸発・父親事故死。祖父母が孫を引き取り育てる。4人の子ども(孫)。祖母は夜の仕事。祖父も日中仕事なので、子どもに手が回らない。

その2) シングルマザー。2人の子ども。母親自体が中学から家を出る。厳格な祖父母。社会的・経済的地位も祖父母にはある。優秀な弟と比べられ、育った母。母親はシンナー中毒歴有。鬱もあり。子どものにおいや汚れもひどい。祖父母の母に対する援助は家を買って与える(ローンは母持ち)が、優秀な弟の受験も重なってか、保育園から話をしても迷惑そうであった。

・園側の対応→養育能力がない家庭なので、保育園にいる間だけでも良い環境にと努力。その2)の例では母親が家庭も片付けられないので、ゴミ袋を持って職員が掃除にいったこともあった。母親はどんどん保育園を頼ってきていた。

「親を助けすぎたら親が親でなくなってしまう？」

「しかし、子供のことを考えるとせめて保育園だけでも良い環境を？」

「福祉が親身な人間関係を補うと、(本来は親と子が培うはずの)親身な人間関係が崩れていく？」

松居先生より：その子たちは今どうしているのか？（→卒園したが、時々子どもは顔を見せにくる）そういった状況の卒園児家庭の親子のケア、是非お願いしたい！大変だとは思いますが、その親子をケアすることが可能な窓口は、現時点で保育園しか考えられない。見守っていただきたい。

保育園には、福祉にはなかなか望めない「情」というものがある。いま、ここまで社会が不信感や疑心暗鬼に満ちて来ているとき、この「情」こそが「絆」の復活になる。地理的な意味での「地域」がなくなっているいま、保育園が「地域」再生できる。地域はすなわち「絆」なのです。

☆ 福祉・保育園の手がどうしても必要な家庭の例が挙げたが、そこまで養育能力が欠けているようには思えないのに、保育園に養育をお任せの保護者が増えてきているように感じる。「やってもらって当然」的な保護者に対してはどうだろうか、と話に移っていく。

## ②「発熱時のお迎えコールについて」

☆ 「お熱が出たのでお迎えにきてください」と電話で言っても、心配しない保護者（「大丈夫なので、寝かしておいてください」とか「あ、それぐらいですか」「今忙しいので、いけません」等々）が増えた気がする→この話から発展

- ・ 保育士の都合で連絡をしてはいないか？→乳幼児はほんの些細なことで、熱は上がる。園での連絡体温が37.5度だからといって、37.5度になったらすぐに、保護者に連絡しようとする。その子の様子やそれまでの状況を観察し、様子を見るといったことを飛ばしていないか。その子が帰ってくると、自分(保育士)が楽になるからという気持ちがないか、心配である。
- ・ しかも37.5度で連絡して「お子さんが、これ・これ・こういう状態なので、迎えに来てください」というならまだしも、「(お迎えに来るかどうかの決断は)お母さんにお任せします」とは何事か。保育士としてのプロ意識もなにもなく、忙しい母親の職場に、呼び出していいのかも考えずに、電話を掛ける姿勢に不安を感じる。

☆ ここから各園での園児発熱時の対応がいろいろでる

- ・ 連絡体温は38度以上になっている
- ・ 入所時に、「保育園ができるのはお母さんのお手伝いだけです」と、発熱時や病時にかぎらず、子どもにはお母さんが大事であることを伝える。保護者とやり取りをしていく中で信頼関係を育てる。
- ・ 連絡後、迎えに来る前に園児の体温が40度以上になったら、近所の小児科に園が受診させている(保護者の了解の下)
- ・ 発熱時は保護者に連絡するが、迎えに来るかどうかは保護者が判断
- ・ 「直後連絡票」を作成。「熱・怪我・かみつき・ひっかき等々」起こったときにすぐに保護者が連絡してほしいものを、入所時にチェックしてもらいそれに基づき、連絡している。保育園暦が長くなるとだんだん連絡希望のチェック項目がへってくる。同様に個人情報保護についても入所時に記入してもらっている(園での写真は撮らないでほしいとか、貼り出さないでほしいとか連絡網に載せない等々)
- ・ 入所時に「連絡希望体温」と「平熱」を個別調査票に保護者に記入してもらっている(園で連絡体温を決めているわけではない)。

松居先生より：共励保育園では入所時に保護者と契約書を交わしていますが、見たことありますか？(何人か見たことがある、と反応)あれは法的な拘束力はないのですが、園の保育姿勢を保護者にキチンと理解してもらったうえで、入園となるわけです。かなり細かく書いてありますよ。保護者に一筆書いてもらおう。これ大事ですよ。親になることは「覚悟」なのですから、それをはっきりさせてやる。是非見ていただきたい。

また、最近出来た新しい保育園の若い園長ががんばっているのですが、園の入り口に、「関所」があるのです。そこで毎朝、全員の保護者が子どもの体温を測らなくてはならない、で熱があったら預からない。根性入っていますよ、若手園長。「毎朝、3分でもいいからわが子をしっかりと抱いて、熱を測る、これがいいのです！」ってね。抱いて毎日測っているうちに、親がわかってくるわけです。わが子を触っただけで熱があるのか、ないのか。

その「関所」のすごいところは、お知らせを配っても読まない保護者が多いだろうから、紙で配るのではなく、その関所に園のお知らせや、もって来て欲しいものの連絡が、どんと貼ってある。親は子どもの熱を測る3分間にそのお知らせがいやでも目に入ってくる、というわけです。

### ③保育現場水際の攻防！？「帰り際のウンチおむつ」

☆「やってもらって当然」風の保護者の話から、保護者に園児をお渡しした直後、または、保護者のお迎え後、園庭で遊んでいるうちに園児がウンチをしちゃった、さあ、その園児のおむつ換えをだれがするのか？という話で盛り上がる。今回の参加者全員に「(あなたなら) どうするか？」を聞いてみることに。

(記録者注；発表の途中で、いろいろコメントが入りましたが、会議録の都合上、全員の発言を箇条書きにしたあと、コメントの趣旨をまとめてあります)

#### 《全員の発言》

- ・ お母さんを誘う「一緒にしませんか？」「お母さん、来るのを待っていたの！お手伝いしますから、一緒に取り替えましょうよ」
- ・ 自分(保育士)でやっちゃうかも。親の気持ちになれば、取り替えてくれてもいいのにと思っているだろうなあ、と思うし。
- ・ 自分が親なら、親として、取り替える。でも保育士には一言言ってほしい。「助かります」とか。「気付かなくてすみません」とか。
- ・ 朝の登園時に、おむつのなかにウンチをしている場合もある(明らかに保育園に来る前に出たウンチだ!)。「ウンチと来たから、ウンチと帰ってね」的に取り替えなくてもいいのでは？(一同爆笑)
- ・ 自分は抵抗なく、保育士としてそのおむつを替えていた
- ・ (前の発言者と同じ園だけど)なるべく保護者を巻き込んで、一緒に取り替える方向に持って行っている
- ・ 今の保護者は「やってもらって当然」。では昔の保護者はどうだったのか？  
→10年位前は保護者のほうから、こちらが何も言わなくても「わたしがやりますよ」という言葉が出ていた。最近は保育士がやるのは当たり前という風潮。保護者はおむつ替えが「自分の仕事」だと思っていない。健康管理の視点としての「うんち」と考えてもらいたい。

- ・ 園では布おむつ使用なので、お母さんが朝来て、家庭からはいてきた紙パンツを布パンツに替えていく。そしてお迎え時は、園の布パンツを家庭用紙パンツに取り替えてもらってから降園なので、そういった帰り際の状況で保育士が悩むことはない。「お母さんが替える事」が親の儀式になっているので、保護者もそんなものかと思っていて苦情もない。時には、(多分めんどうなので、) 園の布おむつを家庭に持ち帰り、朝はそれを家庭から穿かせて来たいという保護者もいたが、一人に許可すると、どんどん崩れるので、お話してお断りしている。
- ・ お母さんに、おむつ台を使用してもらって、電解水でお尻もきれいにし、取り替えてもらっている。保育参観で保護者におむつ台や電解水の使い方をみてもらっている。「お母さん自身に取り替えていただくこともあるでしょうから」と。折に触れ、「おはようございます」「さようなら」のあいさつにはじまり、こういった場合のことも何回も伝える。が、事情によっては保護者を取り替えるのが無理なこともあるので、そこは臨機応変に。
- ・ お母さんだけが労働者じゃないことを伝える。「そうじゃないでしょ？お母さん！」→やるべきことは伝える。この場合のオムツ替えはお母さんの役目。
- ・ 言うタイミングで、見極める。お母さんに余裕がありそうなら「一緒に」余裕がなさそうで、ダメそうならあえて言わない。
- ・ 若い先生にとっては保護者に「(この先生は)おむつ替えが嫌なんだ」と思われるのが苦痛なのかも
- ・ 面倒くさがらずに、保育士がさっさと替えている。以上児の下痢便等には、こどもの恥ずかしいという気持ちを考慮し、別室にシャワーパンを設置して対応。

#### 《発言に対してのコメント・その他》

- ・ 昔は布おむつで、保育士も保護者も子どもそれぞれの排泄のタイミングってわかっていたのですよ (今も園では布おむつ使用)。その子どものタイミングを見て、降園間際にトイレに座らせてみたりしていました。だからおむつが濡れているとかおむつの中に排便しているとか、そんなになかったですよ。
- ・ 最近、心配なのは母親が迎えに来ても飛びついていかない子が増えました。お迎えが遅くなって、お友達がどんどん帰っていくのを見ていると、子ども

は心細くなっていったものですよ。で、お母さんが迎えに来ると、飛びついていった。お母さんも「遅くなってごめんね」って。今、迎えに来てもうれしようにしないし、お母さんも罪悪感がない気がします。母親のほうが保育園より良いというのが崩れてきています。

- ・ 前に、母親が外国籍の方で、お子さんが保育士によくついている家庭がありました。ある日、そのお子さんが夜40度の熱を出してうなされて、担当保育士の名を呼んでいると、お母さんから連絡が園にあったのですよ。その保育士は仕事が終了し、彼とデート中だったにもかかわらず、主任から連絡が行くと、その子の自宅に駆けつけたそうです。もちろん子どもも喜びましたし、お母さんにもすごく感謝された。保育士冥利に尽きる、とはこのことですね、と本人も感動していました。
- ・ 「そうじゃないでしょ！お母さん！」＝宇宙の真理(道祖神の威力！?)  
保育は気合！ by 松居先生(気合の入れ方はいろいろある)→気合、というより「毅然とした態度」ではないかしら。一線をキチンと引くことではないでしょうか。
- ・ うちの園でも、保育士によく、保育のプロなのだから保護者と馴れ合わず、一線をキチンと引きなさいといっています。

松居先生より；いや、おもしろい。瀬戸際のおむつとウンチの問題にしても、実はわれわれがこうやって話している向こうに、保護者が100人くらい聞いているといいですよ。どうするか、何が正解か、なんていうことはないんです。こんな風に現場が思っ、こんな風に感じ、また悩んで親に対応しているのだ、ということを実にこの雰囲気のまま、聞いてもらいたい。そうすれば、親の保育園・保育士に対する、また保育園の親に対する疑心暗鬼なんて吹っ飛んでいくのではないのでしょうか。なあーんだ、って笑ってね。親と保育園に誤解が生じないためにも、こういう座談会があると良いですよ。

親心＝“保育園に感謝する心” だと思うのですよ。親と園が信頼関係を築く、それが親の感謝する気持ちをはぐくむことに繋がる。こんな雰囲気の話し合いを、どんどんして、バンバン発表していきましょうよ。

## 5. 次回の日程確認

平成19年10月1日(月)14時 場所は未定

以上